

第4回 まほろば健康パークにおける インクルーシブ機能検討委員会 議事概要

【日 時】 令和6年10月17日（木） 10:00～11:30

【場 所】 奈良県庁第3会議室

【出席者】 鶴殿委員、菅家委員、根本委員長、野村委員、
星野委員、前田委員、松本委員、矢藤委員（WEB参加）

[オブザーバー]

柳澤国営飛鳥歴史公園事務所所長（欠席）

東田大和郡山市都市建設部長（欠席）

乾井川西町まちづくり推進担当理事

【概 要】

・第4回委員会の議題は、以下1点

① ゾーニング、動線

以下の内容について事務局より説明

- ・（資料3）検討委員会（第4回）委員会資料
（ゾーニング、動線）

【各委員・オブザーバーの意見】

A 委員

- ・インクルーシブというコンセプト（概念）は、理想であり、目指すべき方向性と思っていて、この軸は外しちゃダメだろうと思う。
- ・一方で、今のところ目に見える形で「これがインクルーシブな」ゾーニングですとかではなくて、まずは整備する方針として障害のある人もない人も、すべての人が・・・ということと思う。
- ・「アウトドアエリア」とか、「交流エリア」とか、プレイパークとか、建物が少ないということは、これからの可変性がある、可能性があるということだと思う。
- ・これから事業者さんや今後利用される皆さんと一緒に、何がインクルーシブかっていうのを少しずつ考えていきながら、施設整備をどんどん進めていくようになれば本当に素敵な公園になると思う。
- ・事業手法と官民役割分担を検討する上での留意点、スケジュールの話として、官民連携の案件で行政の方々が民間さんに丸投げする時はだいたい失敗する。今回は事務局の方とここにいらっしゃる委員の先生方がすごく密な議論をされて、当事者意識を持ってやられているので、すごく素晴らしい

いなと思っている。

- ・これから作業が進んでいくと思うが、できれば時間をかけずに、実現に向けてどんどん前倒して進んでいかれると嬉しい。先生方の思いが行政の皆さんにしっかり残っている間に、実現に向けて進んでいかれると良い。

B 委員

- ・前回お願いした道路とか駐車場とか、かなり思っていたような提案がされている。
- ・テニスコートの稼働率が良いと聞いているが、今回ハードコートにして車椅子利用者と一緒にテニスができるようにされている。しかしテニスコートもできてから年月が経ち、待機をする場所やロッカールームが無いと聞いている。テニスコートをきれいにするのであればもう少し大きな大会やインターハイなどができるように全般的に改良することも良いと考え、収益面も見込める施設にすることが望ましい。

C 委員

- ・駐車場の整備にあたり車椅子で来場される方のスペースを確保してほしい。
- ・パリオリンピックでも話題になっているスケートボードについてどう対応するのか。
- ・インクルーシブ対応を含め、多様な利用者への対応としての色彩計画をどうするのか。
- ・検討委員会があと1回しかないので具体的な検討予定を伺いたい。
- ・屋根付きの車椅子用等の駐車スペースは少ないと利用したい人が利用できない恐れがある。ピックアップ用の一時停止ができる乗降用のスペースに屋根を設けることも考えられる。学校だとか福祉施設とかが子供たちを乗り降りさせるにも、駐車スペースで近いところで乗り降りをさせるスペースがあると良い。
- ・別の自治体で障害福祉関係の審議会を務めているが、あえて「障害のある人もない人も」という言い方をしないことにした。なぜわざわざ「障害」だけを出すのかというところで、おそらくインクルーシブというのは、「あらゆる人を排除しない」ということだと思う。意識としては、特に障害というところだけに着目するのではなくて、「排除しない」という考え方が必要かなと思っている。

D 委員

- ・身障者用駐車場は台数が少なすぎる。ゲートでの管理は登録が必要で面倒

である。奈良県でも「思いやり駐車場」として、車椅子の人だけでなく妊婦さんであったり骨折した人とか登録して利用できるようになっている。しかし、範囲をあまり広げてしまうと必要台数が増えてしまう。

- ・ 思いやり駐車場と福祉車両が乗り入れられる後ろが開いた駐車スペースも必要であり、配置の仕方についても意見を聞きながら検討する必要がある。
- ・ また車椅子やベビーカーのルート上に土舗装があると通りにくいので、よく配慮する必要がある。
- ・ 「思いやり（駐車場）」だけでもいいのかもしれないなと思っているが、インクルーシブという意味では、ルールを守るという利用者のモラルの問題も大きいと思われる。登録も面倒なので、仕組みを設定することは難しい。
- ・ 奈良県芸術祭というのをやっているが、今までは障害のある人もない人も、障害者の祭りと、健常者と分けていたが、国文祭、国の文化祭が回ってきた時に、同時開催を奈良県で初めてしたので、その会議にも出ていたが、「障害のある人もない人も」っていうのではなく、障害者団体の人たちが集まって話をするとき、「みんなで楽しめるのがそれでいいのでは」という話をして、「みん芸祭—みんなで楽しむ大芸術祭」という名前に変わった。この公園と根底にあるのは一緒じゃないかなと思う。「みんな」っていうところに、障害の有無だけじゃなくて、子供もお年寄りも、若い人も、生き辛さを感じている人もっていうのも「みんな」っていう意味にはあると思う。

E 委員

- ・ エントランスのワクワク感をしっかり作れたらいいなと思う。電車から降りて、ファミリー公園前駅から来る、歩いている人もいるでしょうし。多くは車で来られると思う。駐車場からのアクセスでどれだけワクワク感が出せるか。あまり人が混み合わないように園路幅は広くとり、余裕を持たせることが必要である。
- ・ ファミリー公園前駅がエントランスで、子ども広場を突き抜けていくが、ここでまず子どもたちが遊べる楽しい場所にする必要がある。ここに木陰というか、日除けになり、またお母さんたちも集えるような場所も必要になる。エントランスのところは広くして商業施設が入る建物を作り、ご飯が食べられるような場所になると良い。
- ・ プロムナードはとても素敵だと思うが、左右につなぐルートとして幅員を広く取っておいてイベントができるだとかお祭りやパレードができる、よさこいでも踊れるぐらいのプロムナードとしてここだけはアーバンな感じでもいいのかなと思っている。

- ・プロムナードがメインにあって、人が混み合うのが左の大屋根広場になり、視察に行かれたような素敵な民間活用施設を建てて、大屋根の中ではいろいろなプログラムを展開して、隣接した場所で子どもたちがプレイパークで泥んこになって遊ぶ、というふうにつながっていく。大屋根からプレイパークに導いていくことが大事になる。
- ・樹林エリアは、中に小道があり、クリークが流れたり、小川やせせらぎがあったり、ベンチがあって人が憩えるような場所があるイメージ。また安全面から樹林は間伐しないといけないと思う。私のイメージでは大阪梅田にできたグラングリーン大阪のようなステージがあって、芝生があって、子どもたちが遊べる噴水のようなものがあるのもいいのかなと思う。大屋根から樹林エリアや交流エリアに導いていく工夫が必要である。
- ・アーバンスポーツエリア、青年、ちょっと大きな子どもたちの遊び場も必要と考える。フランスのボルドーではすごく広い場所を街の端っこに作り、バスケットボールコートやテニスコートでフリーのところもあるが有料施設を作り、中学生高校生を対象にしたような子どもたちのエネルギーを発散できるスポーツができる場所としている。
- ・水道、水場が多くある方がいいと思う。広いので各エリアに一つ作るぐらいの勢いで、設置されればいいと思う。また、子どもたちがどう動いて、どう興味関心を広げて自分の身体を動かしていけるかなという可能性が広がる建設、エリアへ行きたいと思う動線づくりをお願いしたいと思う。
- ・入口の近くにある大屋根広場で遊びが完結してしまわないよう、可能性が広がっていけるよう、人が集まるところはちょっと歩かせることで隣が見える形で興味関心も広がっていくと思っている。例えばプレイパークエリアの上の方まで導ける工夫も必要かもしれない。
- ・目玉になる箱ものが唯一民間活用施設であるが、体育館的な施設があると良い。民間活用施設で全部賄えるのであれば、景観的な意味合いも含め、より良い場所に設定しても良い。
- ・時代の流れが速すぎて予測困難な状況の中で、大人自身も答えを持っていない。そのような時代の中で、子どもが未来の形を作っていくために、多様な他者と学習を共に構築し、答えを共に作っていくことが求められている。そのため、「遊びを通した公園」多様な他者と排除しない、多様な他者を受け入れていく、そして学んで構築して、ともに答えを作っていく、将来の問題解決していくんだよ、というようなコンセプトもいいかなと思う。

F 委員

- ・大和郡山市役所が新しくなって駐車場も綺麗になった。障害者の駐車場と

か屋根がついていて夏は便利で、雨の時も非常に役立つので、同様の施設ができたなら良いと思われる。

- ・ 交流エリアに山を作ってほしいという意見を前に出したが、貯水池になるならここへ大屋根を作ったらどうかと。貯水池としても使えるし、柱だけ建てたら良いのではないか。
- ・ 民間活用施設は民間により運営されると思うが、この公園全体の運営はどこかの民間に運営全体を任せるか、民間活用施設だけ民間に任せるのかどのような考えか。

G 委員

- ・ 今度新しくできる「大屋根広場エリア」がインクルーシブな遊びのメインエリアになると考えているが、障害者用の駐車枠は主に駐車場A、Bのあたりに、多めに必要になってくるのかなと思う。最近は常時開放しない特別な駐車エリアを確保しておいて、障害者手帳を持つ方や、学校とか施設から大型のバスや福祉車両で来られる方をそこへ案内するという方法をとっている公園もある。
- ・ 自転車の利用を自由にすると小さな子どもさんなどとの衝突の危険性が増すので、バイクエリア等自転車が自由に乗れるエリアがあるところのようなリスクを減らせる。公園の外周を1周できるサイクリングコースは良いが、公園の中には全く入れないというのも残念なので、自転車通行可能な園路を設定することも必要である。自転車をおして歩いていける園路と自転車に乗って行ける園路を区分してもよい。
- ・ 遊び場がアクセシブルということで子どもが自転車で入るようになると、特に小さな子どもとの衝突の危険性が増す。バイクトラックとも呼ばれる自転車や三輪車、キックボードなどで走り回れるエリアが別にあるところのようなリスクを減らせ、遊び活動の幅も広がる。
- ・ 整備コンセプトは、検討委員会を進める中で、だんだん方向性も定まってきた。障害のある人もない人も、多様な皆さんが、集ったり、交流したりできるかだよ、というようなことになってきた。
- ・ 子どもの意見を聞こう、子どもの参画を増やそう、ということも進んできたかと思う。つつい「子どもに〇〇させる」という大人目線になりがちだが、子どもは運動や遊びの機会を通して自ら力を伸ばし成長できるといった子ども主体の考え方が重要で、県のこども関連の戦略でも取り組まれているところ。健康パークの事業もそこに含まれると思うので、この視点でもコンセプトの文言を少し調整する必要がある。

H委員

- ・駐車場の屋根については、大屋根広場と一体的に作れる可能性があると思われ、兼用しながら大量な駐車スペースみたいな乗降スペースを確保することも考えられる。
- ・遊具エリアの遊具は固定型よりはモバイル型の遊具が望ましいが、民間活用施設との兼ね合いで決まってくるものとする。
- ・大屋根広場は全部屋根がかかっているイメージか。
- ・何もイベントがない時の、空虚さみたいなものもちゃんと防げるか、民間活用施設としても有効に使えるのか等の議論を今後重ねていくのだろうと思っている。
- ・「既存エリアを含めた公園全体でのインクルーシブ機能を担保する」というところが一番大事なポイントかと思う。何がインクルーシブなんだって考えた時に、これが頭にくる項目なのかなという感じがしております。
- ・「下水道用地の9ヘクタールを検討している」という命題があるが、その枠を超えて公園全体で考えるんだというところが、ここでのインクルーシブのあり方ということのまず大前提なのかなというようなことは思っていた。
- ・インクルーシブ機能という、誰も排除しないという概念から、今回それにも増して、多様な人を巻き込んでいくんだという概念が、ここでは加わっているというところが大きなポイントなのかと思う。既成概念で使われている「インクルーシブ機能」に、多くの人を巻き込む公園を求めているというところに収束してはどうかと思った。
- ・「遊具を持ってインクルーシブを全てを語るのはちょっとまずいよね」というところから議論がスタートしたんじゃないかと記憶しているが、それを全く受け入れないということではないが、もう少し大きな概念で捉えていこうというのが、最終的なインクルーシブの定義にもつながるのかなというところを感じている。
- ・現時点で止まっていなくて、将来的にもちゃんと可変性のある公園があるということもインクルーシブの一つの概念だと思う。

Iオブザーバー

- ・今はファミリープール等北側に利用者が集中しており、川西町からのアクセスとなる南側に人が集まる大屋根や施設が整備されることは良い。
- ・アウトドア関連企業にヒアリングしたが、樹林エリアにもテントエリアを設定でき自然を楽しむことができる。樹林エリアの半分くらいはキャンプができるエリアにしても良い。

J委員

- ・奈良県のまほろば健康パークにおけるインクルーシブ公園の定義について、外向けにも説明することをしっかり言語化をしておいた方が良い。
- ・開園時間の話で「アウトドアエリア」は一晩過ごす方がおられるので、夜の出入りを公園全体として自由にできるようにするのか、開園時間の考え方も合わせて考えていく必要がある。

【まとめ】

- ・コンセプトの話は、いい議論ができたんじゃないかと思うので、さらに深めていければなと思っている。
- ・ゾーニング動線は大きく外れるところはないのかなとは思ったが、その中で自転車の動線、大屋根広場、民間活用施設あたりを中心にご意見が出た。事業者が入らない段階で、すべてこう決めつけるってなかなか難しいところだということではあるが、その後のベースになっていくということでもあるので、少し動きしろも残しながら、確度を高めていければと思っている。
- ・下水道計画範囲との調整も大事なポイントになってくるかと思うので、事務局の方で調整をお願いしたい。
- ・駐車場の話が大きな問題、課題かなと思っている。新しい駐車場の考え方の話や屋根の話もある。それから駐車場からの動線というところの話もあった。今回のこのマスタープランの中に、すべてが反映できることではないが、文言としてきちんと残しておくのは大事なことと思う。
- ・次回、運営についての議論が中心となろうかと思うが、今日のコンセプトの話についても、もう一度議論する時間を取ればなと思っている。ゾーニングあるいは動線についても改めて修正したもの、ブラッシュアップしたものが出てくると思うので、一体に議論ができればというふうに考えている。

※欠席者の意見は、委員会当日、事務局が事前に聞いた内容を発言。